

# 山梨県立 考古博物館だより NO. 71

<http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

発行 山梨県立考古博物館 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923  
発行日 平成23年3月31日 TEL 055-266-3881 (代) FAX 055-266-3882

特集

## 小・中学生の考古学研究 第8回 わたしたちの研究室

県内に在籍する小・中学生の考古学・歴史研究を表彰・展示する「わたしたちの研究室」は8回目をむかえました。今年度の応募は個人研究部門小学校の部5点、中学校の部278点、団体研究部門3点、計286点。応募作品は選定委員会が厳正に審査。「年々レベルが上がっている。体験だけでなく文献調査や面接調査を採り入れ、すばらしい。」委員からは高い評価が寄せられました。

2月6日(日)に入賞した小中学生と先生方、ご家族のみなさん、選定委員、博物館協議委員の方々ほか70名におよぶ多数のご臨席のもと表彰式が開催されました。表彰の後、最優秀賞と優秀賞の受賞者が研究の内容を発表しました。応募作品は展示会で公開されました。



授賞式



選定委員会



個人研究部門入賞者のみなさん



団体研究部門入賞者のみなさん



発表会

関連記事は2面、3面

## 企画展のお知らせ

○春季企画展「古代の台所～縄文土器から圧力鍋まで～」4月23日(土)～6月26日(日)

土器が作られるようになった今から13,000年前の縄文時代草創期。それは煮炊きという新しい調理方法が始まったことを意味します。煮炊きはイエの中心に設けられた炉からカマド、囲炉裏へと変化する中で、新しい料理も生み出されていきます。

縄文時代から現代の煮炊き具の変遷とともに、料理や食器の変化をぜひこの機会にご覧ください。

※ 観覧は無料。常設展は入館料が必要です。

# 「第8回わたしたちの研究室」入賞一覧

## ○ 個人研究部門（小学校の部）

### 最優秀賞（県教育委員長賞）

「縄文土器はおなべとして使えたか？」

都留市立東桂小学校 飯山舞優

### 優秀賞（県教育長賞）

「縄文時代」

中央市立豊富小学校 薬袋曜平

「すばらしい古ふん～旧双葉町の古ふんについて」

甲斐市立双葉西小学校 田中凜

### 努力賞（県考古学協会会長賞）

「縄文時代の山梨」

甲府市立山城小学校 峯岸志向

### 奨励賞（館長賞）

「土器づくり」

甲府市立山城小学校 土橋采奈

## ○ 個人研究部門（中学校の部）

### 最優秀賞（県教育委員長賞）

「よみがえる土器」

山梨英和中学校 小関里歩

### 優秀賞（県教育長賞）

「私の住んでいる田野倉・小形山史跡調査」

都留市立都留第二中学校 小倉楓子

「六地蔵がつくられたわけ」

都留市立都留第二中学校 中江知穂

### 努力賞（県考古学協会会長賞）

「甲斐の中世の城」

甲府市立北西中学校 安達 渉

「新井天満宮と神楽」 都留市立都留第二中学校 柴山大明

### 奨励賞（館長賞）

「身近にあった遺跡」

甲府市立北西中学校 福本稜佑

「宝鉢山について」

都留市立都留第二中学校 加藤裕章

「縄文土器はどうしておおきくなったのか？土偶にはどんな思いが込められたのか？」

都留市立都留第二中学校 岩澤真優

「都留市内の縄文遺跡について」

都留市立都留第二中学校 野武佑馬

## ○ 団体研究部門

### 最優秀賞（県教育委員長賞）

「発見！ふるさと増穂のみみつ」

富士川町立増穂小学校

### 優秀賞（県教育長賞）

「身近な地域の歴史を調べよう」 都留市立都留第二中学校

### 奨励賞（館長賞）

「縄文土器づくりに挑戦」

駿台甲府中学校

## 入賞者に聞く～個人研究部門～

### 小学校の部 飯山舞優さん

#### テーマを選んだきっかけは

土器づくりに参加したとき、じょうもん土器はおなべとして使われていたという話を聞き、本当に食べ物をゆでることができるかためしてみたくまりました。

#### どんな研究をしましたか。

つくった土器でどうもろこしをゆでる実験をしました。苦労したのは水がなかなか温まらなかったこと。でも、おなべのように使えることがわかりました。一回でまっ黒になってしまった土器。1つの土器は何回くらの料理にたえられたのか疑問をもちました。

#### 関心をもっていることは

じょう文時代の生活。たてあな式住居をつくってそのかいてきさや不便さを体験してみたいです。衣服やたきに一番できた土器の大きさや形も調べてみたいです。



### 中学校の部 小関里歩さん

#### テーマを選んだきっかけは

バラバラになって発掘される土器がきれいな形に復元されて博物館に展示されているのはなぜか疑問に思いました。また、土器の破片に記入されている白い文字も疑問でした。

#### どんな研究をしましたか。

土器をどのように接合するか調べるために接合作業を研究しました。実際に作業をさせていただきましたが根気と集中力が必要でした。しかし、破片同士がくっついたときはとてもうれしい気持ちになりました。

#### 研究してみたいテーマは

博物館に行ってもうまれたちょっとした疑問を研究テーマにすることでたくさんの実りがありました。次の研究テーマはまだ決まっていません。



## ご来場をおまちしています！ボランティアガイド活動中

常設展示の解説を行うボランティアガイド。ガイド証をもつ8名が土日祝日を中心にはりきって活動を続けています。ガイドそれぞれに持ち味があり、評判も上々。来館者の声を一つ紹介します。「丁寧なわかりやすい説明をさせていただいてありがとうございます。解説文を読むだけとは違って、古代の人々の息づかいまで遺物から感じとれたように思います・・・」（館に寄せられた礼状より）。

なお、実施日は不定期ですので、館にお問い合わせいただくか、ホームページでご確認ください。





# 22年度下半期をふりかえる

## 特別展・企画展

### ○特別展「発掘された女性の系譜～女性・子ども・家族の造形～」

10月9日(土)～11月28日(日) 来場 4,329人

東日本各地の発掘調査で出土した女性にかかわる資料を通して、縄文時代の女性像や弥生時代の家族のようす、古墳時代の女性の役割、出産や育児の歴史などを概観しました。

生活スタイルは現代と縄文時代では全く異なる一方で、親の子どもへの愛情は今も昔も全く変わらないことを来場した多くの方が再認識していました。



### ○冬季企画展「甲府市内の出土品Ⅲ～古代の道、中道からの眺め～」

12月11日(土)～1月30日(日) 来場 1,280人

平成18年に甲府市に合併した中道町教育委員会が、合併前に発掘調査した貴重な資料を一堂に展示しました。展示した宮ノ上遺跡の資料は今回初めて公開されたもので、地元の方々にもご来館いただきました。



### ○新年干支展

1月2日(日)～1月30日(日) 来場 705人

平成23年は卯年。考古博物館では新年の干支「ウサギ」に係わる考古資料20点前後をエントランスホールに展示しました。平安時代に食用となったウサギの骨、戦国期の水差しウサギ水滴、江戸時代のウサギのもちつきを図案にした茶碗など、来館されて方々はウサギと人の意外と古い関係を興味深く見学していました。



### ○風土記の丘望見展「青銅の奏でる音」

2月1日(火)～3月21日(月) 来場 626人

体験研修施設である風土記の丘研修センターで開催。これまで3年間にわたり青銅器復元実験の成果を公開してきました。今年度は古代の青銅器とその音の復元を試みました。音の体験ブースもあり、来場者は古代の響きに耳を傾けていました。



### ○第8回「わたしたちの研究室」展示会

2月8日(火)～3月6日(日) 来場 757人

第8回「わたしたちの研究室」に小中学生のみなさんから寄せられた考古学や歴史研究の成果を公開。今回も入賞したものだけでなく、応募頂いた395人の286点すべての作品を展示しました。来場者は作品の内容のすばらしさに興味していました。



### ○山梨の遺跡展2011

3月15日(火)～4月10日(日) 開催中

主催は山梨県埋蔵文化財センター。埋蔵文化財センターや県内市町村が行った最新の発掘情報、考古学研究成果を一堂に紹介しています。(出展遺跡) ■美通遺跡(都留市) ■町屋口遺跡(富士川町) ■三光遺跡(笛吹市) ■三ヶ所遺跡(山梨市) ■甲府城跡・甲府城下町遺跡(甲府市) ■山梨県内山岳信仰遺跡分布調査 ほか



**特別講演会**

○【縄文土器にみる母子の神話像】

井戸尻考古館館長 小林公明氏  
10月10日(日) 聴講43人

縄文時代中期に見られる土器につけられた人面装飾付土器や土偶など、女性をかたどった資料から、当時の女性像や文様の意味を解説いただきました。

○【装身具からみた古墳時代の女性像】

奈良芸術短期大学講師 玉城一枝氏  
11月7日(日) 聴講29人

埴輪が身に付けている装身具や古墳から出土する資料から、古墳時代の女性の姿やその役割についてお話いただきました。



○【縄文人のお産】

山梨県埋蔵文化財センター所長 小野正文氏  
11月21日(日) 聴講30人

日本全国各地から出土した土偶を中心に、そのポーズなどから当時の出産のようすや意味をご説明いただきました。

**史跡文化財セミナー**

○【米倉山と周辺の古墳】

10月24日(日) 参加28人

博物館の南西近接地にある米倉山周辺の古墳群を散策し、古墳が作られた時代や古墳の形状について学習しました。



**講演会  
セミナー  
ものづく**

**原始古代の技に学ぶ (高校生以上一般対象)**

- 第9回【煉香作り】 10月16日(土) 参加8人  
香文化が花開いた平安時代の薫物づくりに挑戦しました。
- 第10回【トンボ玉作り】 10月30日(土) 参加4人  
色模様が表現された古墳時代のものを参考に、巻き取り法で作製しました。
- 第11回【重要文化財の縄文の女神を作る～土偶作り～】 10月6日(土) / 20日(土) 2回連続 参加12人  
ハート形で知られる郷原遺跡出土と流麗な容姿の西ノ前出土のものを実物大で復元をめざしました。
- 第12回【貨泉作り実見と青銅鏡作り体験】 12月11日(土)・18日(土) 参加11人  
中国古代貨幣の鑄造を見学後、連弧文銘帯鏡を高い錫の含有量での作製を試みました。
- 第13回【紅花で染める～草木染め教室】 12月25日(日) 参加10人  
化学薬品を使わず当時の方法で絹のストールを「紅色」に染めてみました。  
「紅花を1時間以上ももむのはとても大変でしたが、きれいにできてうれしいです。先人の苦勞がわかりました。」(参加者の感想)
- 第14回【草木染めと原始機織り】 1月22日(土) / 29日(土) / 30日(日) 3回連続 参加12人  
毛糸を植物染料「蘇芳」「刈安」で染め、「原始機」の方法でマフラーを編みあげました。
- 第15回【縄文土器作り】 2月5日(土) / 12日(土) / 26日(土) 3回連続 参加21人  
3日間で縄文土器づくりの全ての工程を体験。粘土は地元曽根丘陵産の天然物を使用しました。
- 第16回【青銅鏡作り】 3月5日(土)・13日(日) 参加10人  
海獣葡萄鏡または連弧文銘帯鏡を作製。第12回と同様に高錫青銅を使いました。

※連続開催のものは延べ人数



土偶づくり



紅花染め



原始機織り



土器の野焼き



**考古博物館の日イベント**

○【古代衣装を着よう】

10月30日(土)・31日(日) 11月13日(土)・27日(土)  
参加60人

古墳時代の巫女や官吏・女官など5種類の衣装を実際に着用しました。

※古代衣装は県内外の学校や教育機関に12件貸出し、ご利用いただきました。



○【考古博冬まつり】

2月26日(土) 来場108人  
土器の文様を和紙に写しとる、弓矢で狩猟体験などのアクションに挑戦しました。

**甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園のイベント**  
共催:富士観光開発・富士グリーンテックグループ

○秋のふれあいまつり

10月17日(日) 来場1240人

○【落ち葉で焼きいも! in 曾根丘陵】

12月12日(日)  
来場114人



**ここはく de タッチ&トーク**

○【考古博物館収蔵庫へ全員集合! ツアー】

1月22日(土)  
参加57人

普段は見学できない収蔵施設を見学し、実際に土器や石器などに触りました。



**古代のもちつき**

1月2日(日)・3日(月)  
来場198人

弥生時代と同じ竪杵と臼を使って、古代米などをまぜた餅米でおもちをつきました。



**その他のイベント**

○ドングリクッキーイベント

11月3日(文化の日) 来場55人

○県民の日イベント11月20日(土)

【特別展と甲斐銚子塚古墳を巡ろう】

来場50人

【ひらけ! 玉手箱】 来場1,100人

於甲府城跡・共催:埋蔵文化財センター



**イベント**

**くり教室**

**チャレンジ博物館 (小中学生親子対象)**

○第5回【縄文人のごちそう どんぐりを味わってみよう】

10月24日(日) 参加15人

どんぐりとくず粉を食材にクッキーとするこをつくり味わいました。木の実ひろいも楽しみました。「どんぐりがおいしいことがわかった。おかしの人がこんなおいしいものを食べているなんておどろいた。」(小学校1年生)

○第6回【弥生時代の稲かりに挑戦しよう】

10月31日(日) 参加6人

粘板岩を削り磨いて石ほうちょうをつくり、古代米の稲かりに挑戦しました。



古代米の稲かり



青銅鏡完成!

○第7回【ユニークな土偶をつくらう】

11月14日(日) 参加9人

「いっちゃん」「チュータ」「ウーラ」、愛称で親しまれる県内出土の土偶をモデルにしました。

「いかに土偶らしいものができ大満足です。縄文人の芸術や信仰にふれることができました。」(保護者)

○第8回【古代の青銅鏡をつくらう】

12月12日(日)・19日(日) 参加23人

鋳型づくりから鋳込み、研ぎまで青銅器製作の技術を鏡づくりを通して学びました。

「顔がうつったとき、とてもびっくりしました。」(小学校2年生)

○第9回【千支の土鈴をつくらう】

1月9日(日) 参加35人

まるい縄文時代の土鈴とそのつくりを応用した新年の干支うさぎの土鈴をつくりました。

「ガチャガチャ容器を使ったので子どももつくりやすかったです。自宅に飾っておける出来でとてもよかったです。」(保護者)

○第10回【縄文時代の布を編んでみよう】

2月13日(日) 参加7人

麻ひもとたこ糸を素材に縄文時代以来の技法「編布」でコースターを編んでみました。

※参加人数は親子の合計



うさぎの土鈴づくり



布編み

# 青銅器復元実験のあゆみ

風土記の丘研修センターは山梨県立考古博物館付属の体験研修施設である。現在、国内の数多くの博物館などの施設では似たような体験サービス（例えば「勾玉作り」など）が行われている。そのような状況の中で、当研修センターでは他の施設とは異なる独自性のある「ものづくり体験」を模索してきた。その結果たどり着いたものが「青銅鏡作り」であった。発端は博物館に来館した方々の展示室に陳列された鏡への感想である。

博物館に展示されている鏡は、鏡といいながら、鏡の面は下になっていて見えない。また、時間の経過によって鏡の表面は錆びて緑色や黒色に変化している。「あれが鏡なのか?」「どこが鏡なのか?」「あの色は何だ?」「あれが貴重なものなのか?」などの質問が入館者の方から発せられる。私たち博物館職員にすれば「青銅鏡の製作当時の姿を再現できる体験講座があったら自分たちも参加者も面白いかもしれない」という単純な発想で青銅鏡作り体験は始まった。考古学者は古墳などから出土した青銅鏡を細かく分析し、古代の権力構造や葬送儀礼などを語るのが常である。しかし私たちは「一般市民にとっては、鏡の細かい分析以前に、自分の手で鏡を製作し、自分がその鏡を手にした時、弥生時代や古墳時代の権力者たちの鏡への思い入れの一端がイメージできるのではないか」と考えたわけである。

平成20年の5月から青銅鏡作り体験の調査や実験をスタートし、10月には直径が10cm以下の青銅鏡作り体験を一般の方々に公開し始めた。この段階では鏡の文様も平面的なものだけであったが、平成21年度にはそれらに加えて「海獣葡萄鏡」という立体的な文様表現を有する鏡も体験メニューに加わった。私たちがその次のステップとして目指したのは、より大きな青銅鏡作りと、もう一つの可能性であった。

私たちが、より大きな鏡の製作体験を実験しながら、模索していたもう一つ他の可能性とは、通常の鏡とは違う青銅器の製作体験であった。山梨県内で発見されたものを体験メニューに加えたかったのである。単なる青銅鏡だけでなく、県内で発見されているもので製作体験できる例は極めて限定されてしまうためである。調査と実験を繰り返した結果、この平成22年度には、鏡の周囲に鈴が付く六鈴鏡（三珠大塚古墳出土）と馬に飾りとして装着したと考えられる三環鈴（甲府市かかん塚古墳出土）、そして大形鏡の製作体験に成功した。しかしこれらの青銅器や大形鏡の製作実験を繰り返す過程で、それらを完成できる確率が通常の小形鏡の完成率よりかなり低いことも判明した。今後はそれらの完成率を高くして製作体験を一般に公開する方法を模索するとともに、まだ県内では一例も発見されていない青銅器である「銅鐸」の製作体験も進めていこうと考えている。



湯入れ（鑄込み）



海獣葡萄鏡（左）と連弧文銘帯鏡（右）



三環鈴（左）と六鈴鏡（右）

## 「原始古代の技術体験学習メニュー」参加者年間総計

	古代の火おこし	まが玉	縄文土鈴	青銅鏡	トンボ玉
学校見学	5,549	2,399	16	—	—
家族・少人数	29	31	—	15	—
その他	644	721	—	27	90
合計	6,222	3,151	16	32	90

※ 3月 日現在。表中の—はメニューの設置なし。  
 ※ その他は「風土記の丘こどもまつり」「夏休みフリーパスポート」「秋のふれあいまつり」の計。  
 ※ 学校見学のメニューである最古の編み物「編布」は実施がなかったので掲載せず。

# 学校と博物館 ～来館校の現状から～

今年度来館した小・中・高等学校等は133校、8,412人（引率者をふくむ）。入館者総数が56,575人であるから、その14.9%にあたる（2月末現在）。この数字は当館が学校の利用に都合のよい博物館であることを物語るものであろう。

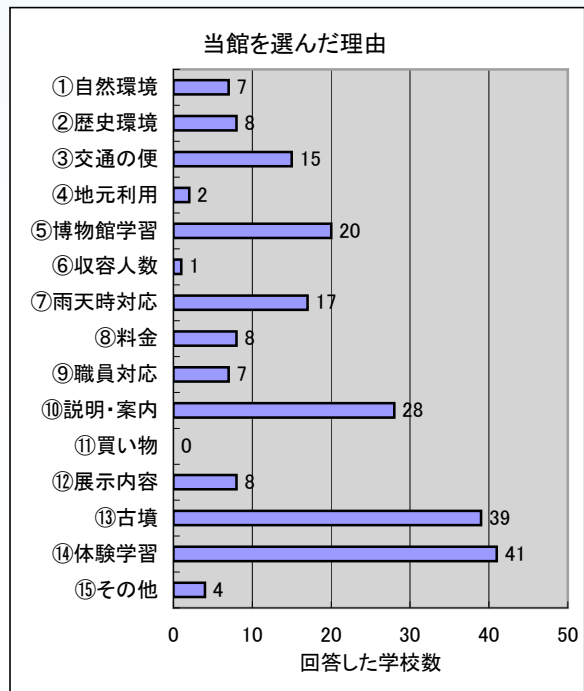
では、当館を選んだ理由は何か。学校やこどもとの対応から経験的に感じているものはあるが、確かめてみる必要がある。そこで、「学校利用に関する調査」を実施し、先生方の声を聞きとってみた。協力をいただいたのは65校。回答は3つに限定した。決め手となった理由と考えてよい。なお、丸数字は質問紙の項目の番号で、本文と下図に共通している。質問は本文では全文で、図では簡潔に記した。その結果にもとづき、話をすすめたいと思う。

目立って多いのは「⑩展示や古墳の説明・案内をしてくれる」「⑬大きな古墳を散策することができる」「⑭体験学習のメニューがある」の3つである。東日本最大級の甲斐・山梨県古墳時代を散策し体感できる周辺環境、火おこし・まが玉づくりなどメニューの開発と指導法の向上をすすめてきた体験学習。当館の特色や取り組みの力点とも整合している。ここで注目したいのは⑩である。「説明・案内」は博物館が行うサービスの基本である。この評価は当館の地道な努力の成果ととらえてよいのではないか。

「③交通の便がよい」「⑤博物館を利用した学習ができる」「⑦雨の日も活動できる」がそれにつづく。こちらは利用者のニーズや便宜ととらえられる要因である。③、⑦は県外の学校に回答が目立つ。当館は県外校の利用が多い。内外の逆転は平成18年度に始まった。今年度も校数では県内が多いものの、人数では県内3602人に対し県外4810人と上回っている。県外校の大半は移動教室（宿泊行事）で山梨県を訪れた東京都の小・中学校である。この2つは移動教室に不可欠な要因なのであろう。

一方、県内の学校が求めているのは⑤である。県内校の来館の目的は校外学習と社会科の学習。日常の学習の延長や発展という意味合いが強い。学習の成否には博物館と学校の「連携」が重要なはずであろう。しかし、学校も先生方も、そして子どもも忙しいのが現実。1回の電話で受けつけ、あとは当日をむかえるケースが大半である。ここから先が大変なのだが、学習の内容や方法を「理解」し合う、先生方との「対話」を深める、取り組みを「継続」するなど一歩すすんだ「連携」をめざすことが課題であろう。

こんなことが時々ある。学校見学で火おこしに興味をもった子、あるいは当日はうまくいかずリベンジをたくらむ子が休日友だちと再チャレンジに訪れ、博物館も見て帰る。博物館で見た土器に興味をもち親子ものづくり教室で土器づくりを体験、出来上がった作品を博物館で実物と見比べる。「博物館っていいな」と思わずつぶやく時である。このようなステップにつながる種まきの仕事を学校が来館した時にできたらと思う。



## 常設展をリニューアルしました

1月に変わりました。重要文化財一の沢遺跡出土土器は防震装置付きのケースへ。不定期で変わるテーマ展示コーナー、「黒曜石の原産地」「縄文時代の食べもの」の展示ブースの設置などなど・・・新たな試みをちりばめました。ここから先はみなさんの目でお確かめください。





# 山梨県立考古博物館 平成23年度行事予定

月	企画・特別展	ものづくり教室 ～原始古代の技に学ぶ～ (高校生以上・一般)	ものづくり教室 ～チャレンジ博物館～ (小・中学生親子)	講演会・セミナー	祭り・その他
4	3/15～4/10 山梨の遺跡展 2011 4/23～6/26 春季企画展 「古代の台所 ～縄文土器から圧力鍋まで～」	23 勾玉作り		17 第48回史跡文化財セミナー 「於曽屋敷と武田ゆかりの寺院」	※考古博物館の日は月の第4(日)土曜日(○の日) その日は、普段は触ることのできない、 本物の土器や石器などに触ることができます。 ②考古博物館の日 古代の衣装を着てみよう！ 3・4
5		14・22 青銅器作り		15 弥生時代の矢じりをつくろう	②考古博物館の日 ③考古博物館の日 土器で煮てみよう！炊いてみよう！
6		4・11・25 縄文土器作り		19 縄文時代の布を編んでみよう	⑤考古博物館の日 土器カードをつくろう！
7	7/16～8/31 夏季企画展 「天陰から伝わった器 ～山梨の須磨器Ⅱ～」 7/16～8/31 夏休み フリーパスポート イベント	9 トンボ玉作り	3 縄文時代のかごをつくろう 17・24・8/7 縄文土器をつくろう	17 第3回考古学講座 31 第50回史跡文化財セミナー 「河口浅間神社と周辺の文化財」	⑩考古博物館の日 考古博物館まるごと探検隊！
8		13 草木染め	21 縄文時代のアクセサリ をつくろう	7 第4回考古学講座	
9		3・11 青銅器作り		4 特別展事前講座	1(～11/30) 第9回わたしたちの研究室 研究成果募集(小中学生対象)
10	9/28～11/23 第29回特別展 「縄文芸術の到達点」	15 勾玉作り 29 トンボ玉作り	2 縄文土器をつくろう 23 縄文人のごちそう どんぐりを味わってみよう 30 弥生時代の稲刈りに挑戦しよう	9 特別講演会① 23 第51回史跡文化財セミナー 「甲斐風土記の丘の古墳群」 30 特別講演会②	②考古博物館の日 縄文王国山梨イベント
11		5 トンボ玉作り 19 草木染め	6 ユニークな土偶をつくろう	13 特別講演会③	20 県民の日イベント (古代衣装体験、甲斐鏡子塚古墳 を巡らうなど。プレゼントあり)
12	12/10～1/29 冬期企画展 「甲州市内の出土品 ～勝沼氏館の発掘調査を 中心～」 1/2～1/29 新年 干支展	3・11 青銅器作り	4・18 古代の青銅鏡をつくろう		
1		14 勾玉作り 21・22 草木染め	8 干支の土鈴をつくろう	22 甲州市内の出土品ミニ講演会	2・3 古代のもちつき ⑧考古博物館の日 考古博物館でお宝発見！
2	2/7～3/4 第9回 「わたしたちの 研究室」 2/1～3/20 風土記の丘 見聞展	4・11・25 縄文土器作り	5 古墳時代のはにわをつくろう		5 わたしたちの研究室表彰式・発表会 ⑤考古博物館の日 考古博物館冬まつり
3	山梨の遺跡 展 2012 3/10～4/8	17・25 青銅器作り			

※特別展の準備及び撤去作業のため、9月22日～27日まで、11月24日～28日まで臨時休館となります。また、平成24年1月10日～16日は館内整備のため、休館となります。なお、改修工事等による臨時休館が見込まれますので、その他の臨時休館日と臨時開館日については、ホームページなどでご確認ください。

※この他、職場体験受け入れ(中学・高校生)やどんぐりイベント(不定期)などを行います。

※開催日及び内容を変更する場合があります。詳しくはホームページをご覧ください。電話で直接お問い合わせください。

※ものづくり教室や講座などのお申し込みが必要なイベントは、開催日の1ヶ月前から募集を開始します。

## 利用のご案内

**山梨県立考古博物館** TEL 055-266-3881 FAX 055-266-3882

開館時間 午前9時から午後5時まで  
ただし、入館は午後4時30分まで  
休館日 毎週月曜日(祝祭日・振替休日を除く)  
祝日の翌日(日曜日・祝日を除く)  
12月29日～1月1日

**※次の場合観覧料が免除になります**

- ・65才以上の方(ただし、特別展は県外の方を除く)
- ・障害者手帳をお持ちの方
- ・毎週土曜日の小・中学生、高校生
- ・県民の日(11月20日)
- ・県内の学校の教育課程での見学(事前の申請が必要)

**交通**

- (1) 路線バスの利用
  - ・甲府駅より豊富行(中道橋経由) - 「県立考古博物館」下車
  - ・甲府駅より市立甲府病院行 - 市立甲府病院で下車乗り換え・富士急平和観光バス古閑町行 - 「風土記の丘産物直売所」下車
- (2) 自動車の利用  
中央自動車道甲府南インターチェンジ前

**風土記の丘研修センター** TEL 055-266-5286 FAX 055-266-5287

場 所 甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内(博物館から少しはなれています。)  
休館日 毎週月曜日(祝祭日の場合は翌日)12月29日から1月3日

